

江幡太瓏先生選評



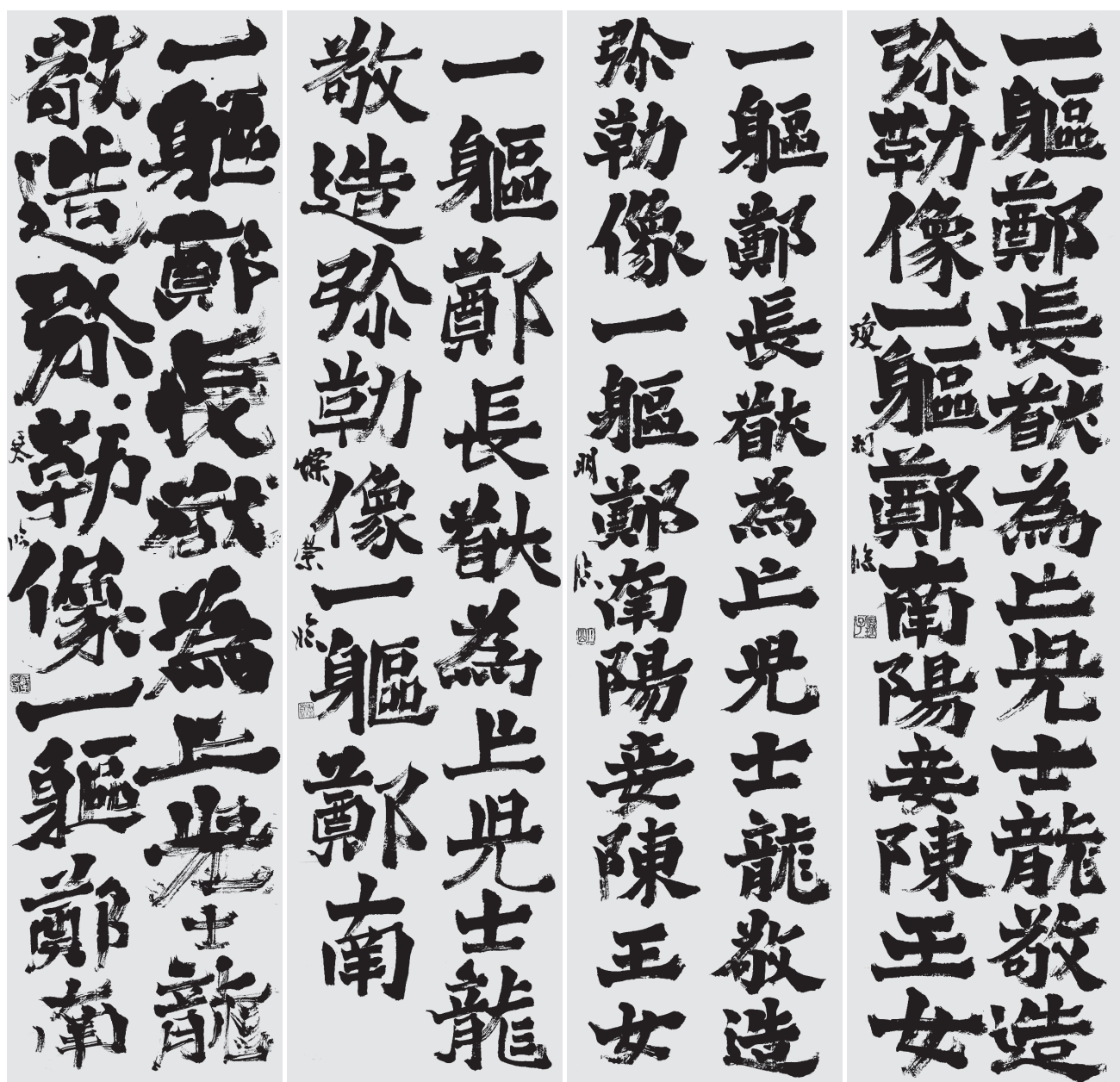
山根 青坡 推選
筆の握り柔かく、動き大きく、潤濁、大小、太細の変化が巧みで、お見事です。落款も素晴らしく白眉であります。乾杯！

山口 千睡花 推選
久し振りに近代詩審査しましたが貴女をこんなに愛したの何ですか？ 綺麗さに加えて、リズム良く、多種多様な線で、動き、ねじれ、ひねり、明るさが魅力。

堀 桂晶 推選
いつもながら力強く安定した線、潤濁いいですね！ 右上がりがあまりにも強い字は一考。「これは見る人が、きつく窮屈に感じる」からです。後「る」は一考を。

稲邊 摩利子 推選
書き出しやや大きいが何と言つても余白の美しさに好感を持ちました。白の美しさ大切にしてください。あまりにも細い平仮名には注意しましょう。「せる」佳。

桜井辰雄先生選評



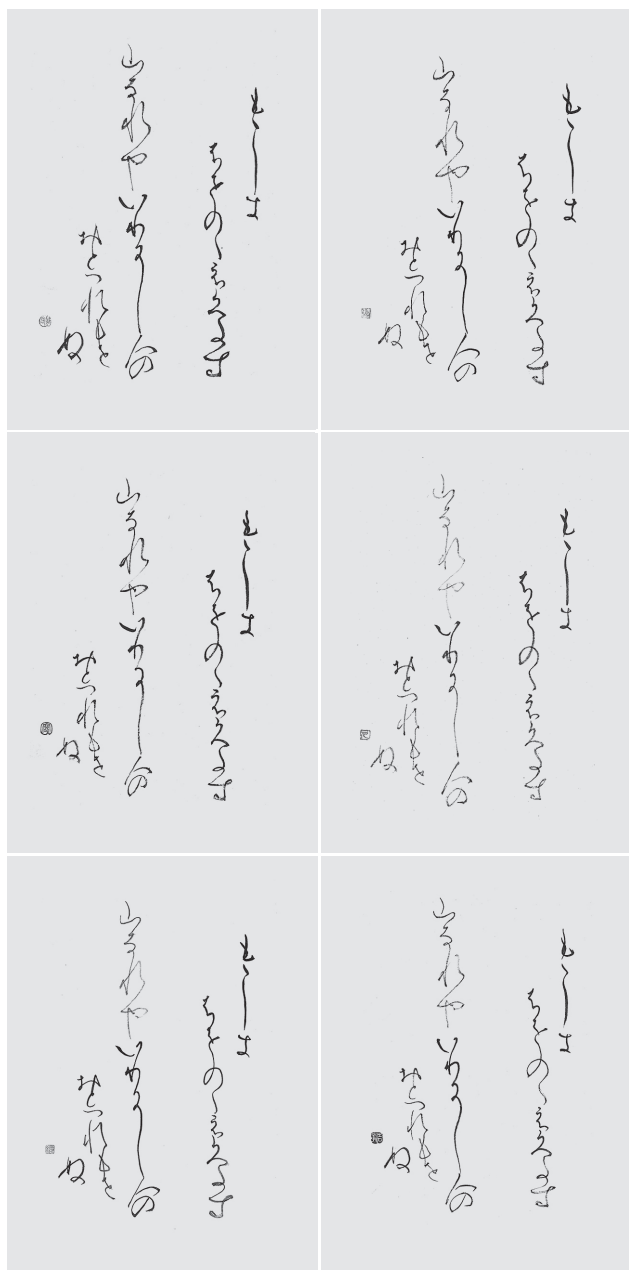
藤田 瓊羽 推選
造像記のセオリーと鄭長猷
造像記の風貌を巧みに表現
し、文字数のわりに狭い紙
面をもつとせず、文字
間に気を配りながら温かな
筆致で書き上げた秀逸作。

藤本 明 推選
右上がり表現が多過ぎと感
じるが、羊毛での日頃の学
書から繰り出された温かな
線質が、造像記然とした臨
書でない表現方法のひとつ
を例示させている秀逸作。

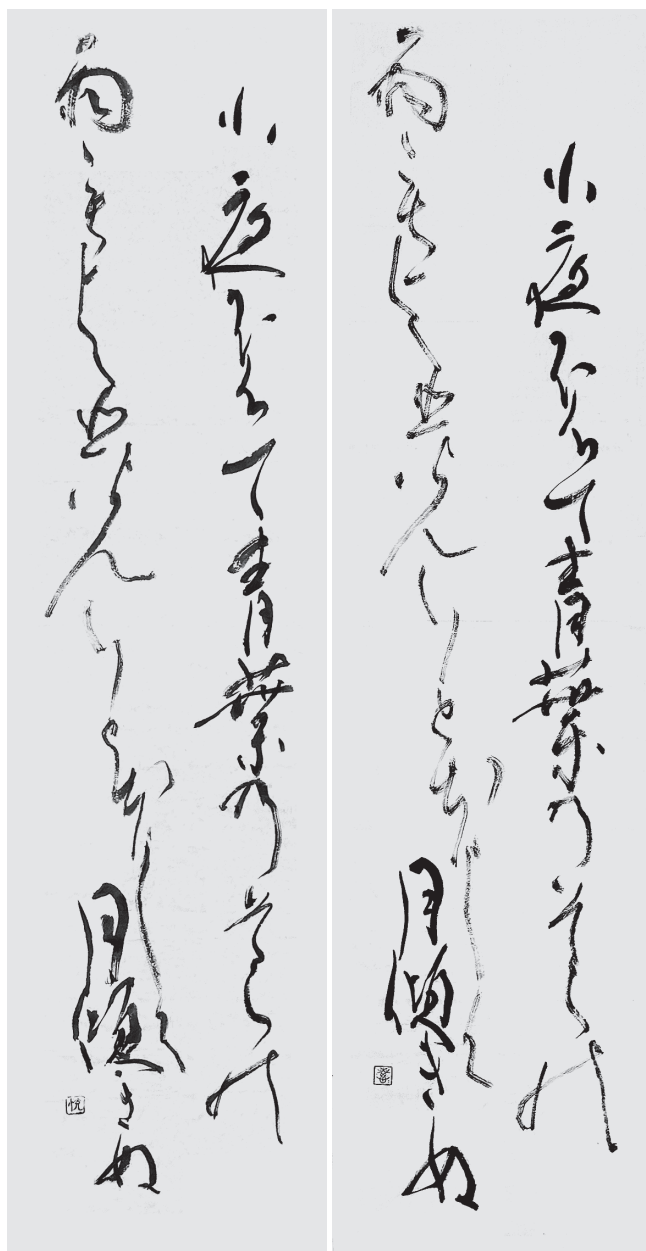
今村 燦崇 推選
飾り気がなく質朴な表情で、
直線のかつ健康的な運筆。
鄭長猷造像記の特徴を捉え
一文字ずつを丁寧に紙面に
配置して秀逸。質朴からよ
り洗練された線が魅力的。

二宮 琴浄 推選
勿論賛否が出ることは当然
のこととして選出。意臨の
概念をも遙かに置き去りに
しているが、学書に裏付け
られた線質や造形が作品と
しての輝きを増幅した秀作。

佐々木優子先生選評



笠原博子先生選評



金子 恵 推選

太細を意識し変化する筆線は濃いめの墨色でピリッと作品を引き締めています。左行での沈んだ筆から生まれてくる渴筆表現は魅力的で心を奪われました。

小林悦子 推選

筆先まで気持ちが入り、文字の振幅や粗密を自然体で下へ下へと受け継ぐ。左行では筆のおもむくままに伸びやかな流れを成している。爽快な作品です。

畑井智子 師範

リズムにのり暢びやかに濃淡美しく落ち着きある運筆で書かれ見事です。潤渴の推移が自然で、深い呼吸で書かれた渴筆が完成度を高めています。

栗田久仁子 師範

真摯に原帖と向かい合い、文字一つ一つをしつかり据えています。間の取り方、景色の変化が美しく、習得の深さを感じる作品です。

田尾雅尚 準師

原帖のリズムを上手くつかんで余裕ある作。墨量多く山場がなくなり惜しい。墨量控え、渴筆を出して下さいます。作品に趣が増すのでは。

菊谷寒鷗 八段

書き出しがやや重いが原帖の筆捌きを良く捉えています。前半はリズムにのり暢びやかに後半、少々動きが堅くなったのが惜しい。

鈴木浩子 師範

やわらかく暢びやかな線質の作品です。更に緩急をつけ筆圧をかけるとダイナミックさが加わり重量感が増すのでは。

寺田彩秋 七段

墨色美しく渴筆も効いて暢びやかな作。ねばりある線も欲しい。筆圧の変化、遅速のリズムによって作品の深みが増します。更なる研究を。

武良霜伯先生選評



稲葉理恵

師範

良く藏録を駆使して、線に厚味を加えている。羊毫を上手く使って、渴筆にとっても柔らかい用法が合っており、渾身の味わいの妙を見る。

吉武美玲

三段

筆に充分の墨を含ませて丹念に習ってコクのある線です。「泰」の左右払いの筆運び、殊更の力みもなく大らかに捉えていて暢びやかです。

伊藤詔華

師範

暢達した線で楽に運筆して、見事な流れを表現している。グングン書き込んで行く呼吸の繋がりが快いリズムを生んで最優秀作品に相応しい。

遠藤文字

準五

八面出鋒、筆が良く動いており力みのない自然で流麗な運筆が見事です。行間の取り方も素晴らしく、落款、押印に至るまで明るく上品な作品です。

尾崎滴翠

準六

的確な筆致と穂先に込める心情の機微が見事に表現された作です。懐の広さが大きく良く、正確に学ぼうとする態度が感じられます。

源甲斐裕華

準三

高くから落筆して飄々と書き進めて行く中、気脈が貫通している。勢いに乗って響きのある線が小気味良く、それが落款にも反映している。

今泉白楊

七段

颯爽として空間を裁断して行く気合が素晴らしいです。気魄を持って書いた作品は多少の難点をも消してしまうだけの魅力を持つています。

岩崎玉楊

四段

太細の変化ある線と、渴筆が上手く調和して意欲的な秀作です。達筆な方ですが、何処かで休むところを覚えれば、更に一段と進歩します。

進戸房子

準四

筆線が紙面によく定着しており、重厚感のある「泰」と「山」の渴筆の対比が呼応している。肘の力を抜いていて清澄な筆運びが好感です。

上野佳登

初段

筆圧を加減しながら独特のリズムで線に彩を求め見栄えのする作です。穏やかな書き振りの線の和らぎは、呼吸の長さや手首の柔らかさからです。

齊藤直子

五段

細い線の動きも良く表現しており、やや小振りながら渴筆の妙味が見事です。一行目に字間が少しあれば、更に一段と進歩すると思います。

佐藤奏瑛

二段

暢達した線で楽に運筆しており、特に二行目が素晴らしいです。一行目の下部に少し空気があれば更に良いのと、輝きのある押印をお願いしたいです。